

6月議会が閉会（6月29日）

天守閣木造復元関連議案は継続審査に 「2020年7月まで」は断念、2027年めざす？

6月29日に名古屋市会6月定例会が閉会しました。河村市長が提案した名古屋城天守閣木造復元に関する議案（6件）は、継続審査となりました。

経済水道委員会で自民党市議が、名古屋城天守閣の木造復元を認めたうえで、完成を市長提案の2020年から、アジア競技大会（2026年）やリニア開業予定（2027年）に延期するよう提案し、河村市長も「2027年リニア開業などを目途に見直すことも名古屋市にとって大きな起爆剤になる」と答弁し、本会議で継続審査が決まりました。

天守閣取り壊しの拙速さに変わりはない

木造復元の完成時期を2026年あるいは27年まで延期したとしても、工期は10年足らずしかありません。2020年7月までに天守閣を復元するという竹中工務店の提案でも、後回しにした石垣工事まで完了する予定は2024年度ですから、石垣工事も含めると工期は8年になります。自民党の提案は、石垣工事から着手するというので、手順は変わりますが、工期は最大3年伸びるだけ。すぐに現天守閣の取り壊しにかかり、木造化を拙速に進めるという点では、竹中工務店案と大差がありません。

緊急に耐震改修し、ゆっくりと検討を

市民アンケートでは、「2020年7月にとらわれずに木造復元を行う」と回答した人が4割と最多でしたが、この回答を選択した人のすべてが、現天守閣の耐震改修を否定したと捉えることはできません。まずは耐震改修を行い、将来、建て替えが必要になった時には、コンクリートでなく木造で復元すべきと考えて、この回答を選択した市民も少なくないと思います。

天守閣の耐震性に危険があるというのなら、まずは耐震改修を急いで行い、木造復元については数十年かけて市民的な議論を行えばよいのではないでしょうか。

意見書可決は3件。共産の3件は否決

意見書案は9件が提案され、3件を可決。日本共産党提案の3件は否決されました。

可決した意見書

- ・無電柱化の推進に関する法整備を求める意見書
- ・特別支援教育支援員の活用の推進に関する意見書
- ・食品ロス削減への取り組みに関する意見書

否決された共産党提案の意見書

- ・被災者生活再建支援制度の拡充・改善を求める意見書（案）…自公減が反対
- ・元海兵隊員の米軍属による女性死体遺棄事件に関する意見書（案）…自民減が反対
- ・保育所待機児童の解消に向けた緊急施策に関する意見書（案）…自公減が反対

